

# 震災対応記録の発行にあたって

～防災対応力のさらなる向上に～

八王子市長 石森 孝志

未曾有の大災害となった東日本大震災から2年。この震災で犠牲になられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災され、現在でも避難生活をおくられている皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。

本市においても震度5弱を記録し、その長く、大きな揺れは今でも鮮明に記憶しております。市内において大きな被害はなかったものの、JR、京王電鉄の主要駅には多くの人々が滞留し、避難所の開設や情報発信など、市職員・市消防団員をはじめ、地域の皆さまの協力もいただきながら、混乱もなく対応したところで

その後、東京電力福島第一原子力発電所の事故による計画停電の実施や放射能汚染への対応など、市民生活にも大きな影響を及ぼすとともに、市内に避難された皆さまの受け入れや被災地への支援と、その活動は多岐にわたり、それぞれ新たな課題も抽出されました。

市議会においても「復興支援・災害対策特別委員会」が設置され、活発な議論をいただくなど、まさに「オール八王子」で取り組んでまいりました。

この震災の記憶は、決して風化させてはならないものであり、被災地復興の道も未だ半ば…。被災地との「顔の見える関係」の構築をはじめ、現在も300名を超える市内避難の皆さまへの“息の長い支援”など、今後も被災地に心を寄せ、支援を継続してまいります。

地震をはじめとする自然災害は、その発生自体を食い止めることはできませんが、市民一人ひとりの「自助」、地域ぐるみでの「共助」とともに、公的機関の連携による「公助」が有機的に機能し、被害をできるだけ最小限に抑える「減災」の取り組みを推進することが必要です。そこで、震災の瞬間に直面した私たちが、さまざまな対応を「記録」として残すことは、今後の本市における災害対応や被災地への支援につなげるためにも重要な「活きた資料」となるに違いありません。

この記録を、本市における防災対応力のさらなる向上への一助とし、今後も安全・安心なまちづくりを推進してまいります。

## 記録の編集について

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災により、お亡くなりになられました方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

市内では、震災による大きな被害はなかったところですが、震災発生から全庁をあげて様々な対応や被災地及び避難者の支援を実施してきたところです。

本記録は、本市において実施した対応や支援の内容、経緯や実績等を、できる限り各所管が震災発生からどのような対応を行ったのかをありのままお伝えするため、所管ごとの報告を集約することにより作成しております。そのため、内容が重複する点や掲載の順番が時系列順とは異なる点などがございます。

今後、東日本大震災のような大災害が発生した際に、全庁をあげた対応の一例として活用するとともに、各所管の役割を再認識し、さらなる安全・安心なまちづくりの一助としてまいります。

※本誌については、平成 25 年 2 月中旬を目途に作成した各所管課からの報告を集約・編集したものです。

東日本大震災総合相談センター